

たいにい・ぼっくすつうしん

Vol.78

令和3年
9月13日

わたしたちが伴走者であるために

パラリンピックが幕を閉じました。賛否両論あるなかでのオリンピック・パラリンピックは、テレビ越しで十分に見ごたえがあったと感じました。メダル獲得を目指すことだけが選手の目標ではなく、様々な思想や視点から大会をフォーカスするのが見どころともいえるでしょう。パラリンピックでは、視覚障がいの判走者がパートナーである走者にプロポーズした場面に心温まりました。

今月の通信は、「おすすめ書籍」と題した枠を設けさせていただきました。この本には私たち支援者に必要なことが書かれており、支援の悩みや誤りを解決に導いてくれる支援者のバイブルといっても過言ではないです。支援者は、支援される側から見ても安心できる環境（安心の土台）、判走者という存在、チャレンジできる環境を提供することが必要と呈しています。判走者は、励ましや頑張らせるのではなく、“いつでも見てるよ！”

“いつでもで手伝うよ！”といった気持ちで、承認を与え、自己評価を上げさせ自信をつけてもらうことが役割です。ただ、判走者も支援される側から、「判走者はあなた」と信頼して認めてもらえなければ、かける言葉は力を持たず、承認を与えることはできません。つまり、たいにい・ぼっくすの支援の第一条件は、子どもたちと一緒に遊んで、転がって、体験と感情を共有して信頼を築くことです。

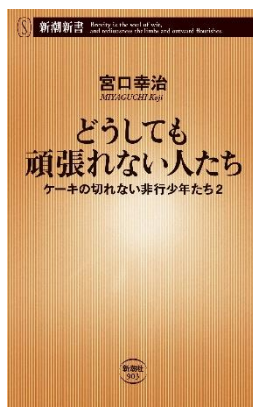
思いがけない延長があった夏休み。その分、体験と感情を共有する時間がたくさんできたと感じ、同時に、判走者でありたいと強く心に願う夏休みでした。

たいにい
のようす

写真掲載欄のため、内容を削除しております

「おすすめ書籍」

明けない緊急事態宣言。児童精神科医・宮口幸治氏のベストセラー『ケーキの切れない非行少年たち』（2019年、新潮新書）の続編、『どうしても頑張れない人たち』（2021年、新潮新書）を読み返してみました。頑張り方がわからず苦しんでいる人たちに対して、支援者としての姿勢が綴られ、その内容は子どもたちの支援に通じるものがあります。ご要望がありましたら貸出致しますので、お家時間の過ごしに、いかがでしょうか。



10月の予定

ハロウィン
(創作、10/29 イベント)

10月 休業日

2日 3日
9日 10日
16日 17日
23日 24日
30日 31日

